

様式第 1 号

令和 8 年 6 月 2 4 日

文部科学大臣 殿

学校法人武蔵野大学

理事長 中尾 史峰

大学等における修学の支援に関する法律第 3 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	武蔵野大学
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	( <input checked="" type="checkbox"/> 大学 ・ 短期大学 ・ 高等専門学校 ・ 専門学校 )
大学等の所在地	東京都江東区有明三丁目 3 番 3 号
学長又は校長の氏名	小西 聖子
設置者の名称	学校法人武蔵野大学
設置者の主たる事務所の所在地	東京都江東区有明三丁目 3 番 3 号
設置者の代表者の氏名	中尾 史峰
申請書を公表する予定のホームページアドレス	<a href="https://www.musashino-u.ac.jp/">https://www.musashino-u.ac.jp/</a>

※ 以下のいずれかのにレ点 () を付けて下さい。

- 確認申請  
大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 1 項に基づき確認申請書を提出します。
- 更新確認申請書の提出  
大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 3 項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべてのにレ点 () を付けて下さい。

- この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。
- 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。
- 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取

り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第3条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	総務部総務課 平野ゆかり	03-5530-7372	soumu@musashino-u.ac.jp
第2号の1	総務部総務課 平野ゆかり	03-5530-7372	soumu@musashino-u.ac.jp
第2号の2	総務部総務課 平野ゆかり	03-5530-7372	soumu@musashino-u.ac.jp
第2号の3	総務部総務課 平野ゆかり	03-5530-7372	soumu@musashino-u.ac.jp
第2号の4	総務部総務課 平野ゆかり	03-5530-7372	soumu@musashino-u.ac.jp

○添付書類

- ※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点 (☑) を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

その他

- 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校コード	F113310103830	学校名	武蔵野大学
設置者名	学校法人武蔵野大学		

I. ①直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	23,598,919,437円	20,981,948,466円	2,616,970,971円
申請2年度前の決算	21,698,728,321円	19,456,329,482円	2,242,398,839円
申請3年度前の決算	20,318,818,429円	18,276,196,952円	2,042,621,477円

I. ②直前の決算の貸借対照表における「運用資産-外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	39,591,897,729円	7,616,868,998円	31,975,028,731円

II. 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率(F)/(E)
今年度(申請年度)	10,549人	10,942人	104%
前年度	10,474人	10,867人	104%
前々年度	10,399人	10,566人	102%

大学・短期大学・高等専門学校で、II. 申請校の直近3年度の全ての収容定員充足率が8割未満の場合申請前年度に当該学校を卒業した者について、今年度(申請年度)5月1日時点の状況について

(A)又は(B)のいずれかを記載

・申請校の直近の進学・就職率の状況(A)学校基本統計を利用する場合

	卒業者数(G)	進学者数+就職者数(H)	進学・就職率(H)/(G)
申請前年度の状況	人	人	%

・申請校の直近の進学・就職率の状況(B)学校基本統計を利用しない場合

	進学希望者+就職希望者(I)	進学者数+就職者数(J)	進学・就職率(J)/(I)
申請前年度の状況	人	人	%

(I. ②の補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	資産の内容	申請前年度の決算における金額
		円
		円
		円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	負債の内容	申請前年度の決算における金額
		円
		円
		円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	武蔵野大学
設置者名	学校法人武蔵野大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門 科目	合計			
文学部	日本文学文化学科	夜・通信	4	0	10	14	13		
グローバル学部	グローバルコミュニケーション学科	夜・通信		0		11	15	13	
	日本語コミュニケーション学科	夜・通信				10	14	13	
	グローバルビジネス学科	夜・通信				12	16	13	
法学部	法律学科	夜・通信		0		10	14	13	
	政治学科	夜・通信				10	14	13	
経済学部	経済学科	夜・通信		0	10	14	13		
経営学部	経営学科	夜・通信		0		10	14	13	
	会計ガバナンス学科	夜・通信				10	14	13	
アントレプレナーシップ学部	アントレプレナーシップ学科	夜・通信		0	10	14	13		
データサイエンス学部	データサイエンス学科	夜・通信	3	0	11	14	13		
人間科学部	人間科学科	夜・通信	4	0	10	14	13		
	社会福祉学科	夜・通信			10	14	13		
ウェルビーイング学部	ウェルビーイング学科	夜・通信	0	12	16	13			
工学部	サステナビリティ学科	夜・通信	4	0	10	14	13		

	環境システム学科	夜・通信			10	14	13	
	数理工学科	夜・通信			10	14	13	
	建築デザイン学科	夜・通信			10	14	13	
教育学部	教育学科	夜・通信		0	10	14	13	
	幼児教育学科	夜・通信			10	14	13	
薬学部	薬学科	夜・通信	1	0	20	21	19	
看護学部	看護学科	夜・通信	4	0	11	15	13	
通信教育部 (人間科学部)	人間科学科	夜・通信		10	221	231	13	
通信教育部 (教育学部)	教育学科	夜・通信		10	92	102	13	
通信教育部 (国際 データサイエンス学部)	データサイエンス学科	夜・通信	1	0	12	13	13	
(備考)								

## 2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学 WEB サイト/通信教育部 WEB サイトで公表している。

■通学制

<https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/>

■通信制

[https://dl.musashino-u.ac.jp/guide/guide\\_study/syllabus/](https://dl.musashino-u.ac.jp/guide/guide_study/syllabus/)

## 3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	武蔵野大学
設置者名	学校法人武蔵野大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページで公開 <a href="https://ef.musashino-u.ac.jp/about/officer/">https://ef.musashino-u.ac.jp/about/officer/</a>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人理事長	2025.4.1～ 令和10年度定 時評議員会終 結の時	理事長、常務理事及 び学内理事の職務 の執行状況の監督・ 評価等
非常勤	弁護士	2026.6.1～ 令和11年度定 時評議員会終 結の時	コンプライアンス のチェック
(備考) 学外者は上記の他に8名、合計10名			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	武蔵野大学
設置者名	学校法人武蔵野大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>■通学制及び通信教育部 (国際データサイエンス学部)</p> <p>&lt;作成過程・公表に係る取組&gt;</p> <p>・シラバスに、授業科目の実施形態及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、予習と復習の具体的な内容、授業計画、教科書、ICTの活用状況、実務経験のある教員等による授業科目などを記載し、つぎの手順に基づき作成している。</p> <p>① 科目担当教員にシラバス作成依頼                  ② 学科長、研究科長校正                  ③ 学生公開に向けたシステム設定等                  ④ 学生公開</p> <p>&lt;スケジュール&gt;</p> <p>入力期限：2026年1月30日(金)                  学科長校正・研究科長校正期限：2026年2月13日(金)                  差戻分修正期限：2026年2月20日(金)                  学生公開：2026年3月4日(水)</p> <p>■通信教育部 (人間科学部・教育学部)</p> <p>全ての授業科目において、授業科目の授業方法、到達目標、テキストの概要、授業計画、成績評価の方法を具体的に記載している。                  シラバス執筆教員へは上記必要事項を記載するよう案内し、教学システムを用いて漏れのないよう管理・整備している。                  シラバスは前年度中に作成し、インターネット上に公表をしている。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>■通学制及び通信教育部 (国際データサイエンス学部)</p> <p><a href="https://muscat.musashino-u.ac.jp/portal/slbssrch.do?clearAccessData=true&amp;contentnam=slbssrch&amp;kjnmnNo=10">https://muscat.musashino-u.ac.jp/portal/slbssrch.do?clearAccessData=true&amp;contentnam=slbssrch&amp;kjnmnNo=10</a></p> <p>■通信教育部 (人間科学部・教育学部)</p> <p><a href="https://dl.musashino-u.ac.jp/guide/guide_study/syllabus/">https://dl.musashino-u.ac.jp/guide/guide_study/syllabus/</a></p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

■通学制及び通信教育部 (国際データサイエンス学部)

<学修成果の評価方法>

・主に「筆記試験」「レポート」の学修成果を元に判定している。その他の評価方法として「小テスト」「授業内で発表した内容 (プレゼン)」等も評価に含まれる場合がある。

<学修成果の評価基準>

・試験等の学修成果に基づき「S. A. B. C. D. X」で評価している。  
なお、評価の基準については、大学 WEB サイトにて公開されている。

<単位の付与、履修の認定>

・事前にシラバスにて学生に提示し、かつ大学 WEB サイトにて公開しているとおりの基準・方法にて厳格かつ適正に運用されている。

■通信教育部 (人間科学部・教育学部)

学修成果の評価方法は、主に「単位認定試験」の実施により判定する。  
学修成果の評価基準は学修成果に基づき「S~X」の範囲で設定されている。  
なお、評価方法及び評価基準については、本学の HP にて公開されている。  
単位の授与、履修の認定に関しては、事前に学生に提示しかつ大学 HP にて公開しているとおりの、あらかじめ設定した基準・方法にて厳格かつ適切に運用されている

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

■通学制及び通信教育部 (国際データサイエンス学部)

<GPAの算出方法・実施状況等>

・評価それぞれに成績ポイント (Sを4.0ポイント、Aを3.0ポイント、Bを2.0ポイント、Cを1.0ポイント、D、Xを0ポイント) を設定し、その成績ポイントに科目の単位数を乗じた値の合計を、履修単位数の合計で割って GPA を算出する。(小数点第3位以下は切り捨て)  
・GPAの算出は、各学期 (1 - 4学期) の成績確定後に実施する。

<成績分布状況の把握>

・成績分布については、資料を作成し内容を把握している。  
また、作成した資料を学科長に共有している。

■通信教育部 (人間科学部・教育学部)

学修の到達度を評価するために GPA 制度を導入している。GPA は、履修した科目の評価 (S~X) を成績ポイントに置き換えて学習到達度を客観的に評価し、学習指導等に活用している。

GPA 算出方法

GPA = [科目単位数×成績ポイント (S=4 A=3 B=2 C=1 D=0 X=0) の合計]  
/総履修単位数 [履修単位数の合計] ※小数点第3位以下切り捨て

<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>■通学制  <a href="https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/faculty/guide/8-grade-faculty/">https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/faculty/guide/8-grade-faculty/</a>            ■通信教育部            (人間科学部・教育学部)  <a href="https://dl.musashino-u.ac.jp/guide/guide_study/syllabus/">https://dl.musashino-u.ac.jp/guide/guide_study/syllabus/</a>            (国際データサイエンス学部)  <a href="https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/yoran/2026/tsushin/pdf/guide_jp.pdf">https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/yoran/2026/tsushin/pdf/guide_jp.pdf</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

### ■通学制

・各学部、学科にて策定されたディプロマ・ポリシーや卒業の認定に関する方針（卒業の要件）に基づき、つぎの手順で卒業の判定を行っている。

<卒業の認定に関する方針>

1. 本学に4年以上（薬学部は6年以上）在学していること（ただし、全ての学年で1年以上在籍すること）
2. 各学部において定められた教育課程を履修し、卒業に必要な単位を修得していること
3. 本学において定められた学費を納入していること
4. 在学期間における成績平均値（総合 GPA）が 2.00 以上（小数第 3 位以下切り捨て）であること

<卒業の判定に関する手順・実施状況等>

・卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ、つぎの手順に基づき卒業の認定を行っている。

- ① 4 学期、後期、通年開講科目の成績提出
- ② 事務にて卒業要件の精査、判定資料作成
- ③ 各学部の教授会にて審議、判定
- ④ 卒業の認定

<適切な実施に係る取組>

・本学の HP にて公開されている卒業の認定に関する方針（卒業の要件）について、事務にて要件の充足を精査したのち、各学部にて策定されたディプロマ・ポリシーに基づき、教授会にて厳格な卒業の判定を行っている。

### ■通信教育部

(人間科学部・教育学部)

学部ごとに学位授与の方針（ディプロマポリシー）を策定し公表している。

卒業要件は学科・専攻・専修および入学区分（1 年次入学／2 年次編入学／3 年次編入学／4 年次編入学）により異なるため、各専攻・専修ページで公表している。要件を満たした者には、通信教育部委員会の意見を聴き、学長が卒業を認定し、学位を授与している。

(国際データサイエンス学部)

・学部、学科にて策定されたディプロマ・ポリシーや卒業の認定に関する方針（卒業の要件）に基づき、つぎの手順で卒業の判定を行っている。

<卒業の認定に関する方針>

- (1) 本学に 4 年以上在学していること※
- (2) 定められた教育課程を履修し、卒業に必要な単位を修得していること（このうち、最低 30 単位は面接授業又はメディア授業によって取得しなければならない）
- (3) 本学において定められた学費を納入していること

※在学期間には休学期間は含まれません

<卒業の判定に関する手順等>

・卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ、つぎの手順に基づき卒業

の認定を行う。

- ① 4 学期、後期、通年開講科目の成績提出
- ② 事務にて卒業要件の精査、判定資料作成
- ③ 学部の教授会にて審議、判定
- ④ 卒業の認定

<適切な実施に係る取組>

・本学の HP にて公開されている卒業の認定に関する方針（卒業の要件）について、事務にて要件の充足を精査したのち、学部にて策定されたディプロマ・ポリシーに基づき、教授会にて厳格な卒業の判定を行う。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	<p>■通学制 <a href="https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/faculty/guide/10-graduation-requirements-faculty/">https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/faculty/guide/10-graduation-requirements-faculty/</a></p> <p>■通信教育部 (人間科学部・教育学部) <a href="https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/human_sciences/">https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/human_sciences/</a></p> <p>(国際データサイエンス学部) <a href="https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/yoran/2026/tsushin/pdf/guide_jp.pdf">https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/yoran/2026/tsushin/pdf/guide_jp.pdf</a></p>
----------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	武蔵野大学
設置者名	学校法人武蔵野大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://ef.musashino-u.ac.jp/about/business-reports/">https://ef.musashino-u.ac.jp/about/business-reports/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://ef.musashino-u.ac.jp/about/business-reports/">https://ef.musashino-u.ac.jp/about/business-reports/</a>
財産目録	<a href="https://ef.musashino-u.ac.jp/about/business-reports/">https://ef.musashino-u.ac.jp/about/business-reports/</a>
事業報告書	<a href="https://ef.musashino-u.ac.jp/about/business-reports/">https://ef.musashino-u.ac.jp/about/business-reports/</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://ef.musashino-u.ac.jp/about/business-reports/">https://ef.musashino-u.ac.jp/about/business-reports/</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和8年度事業計画 対象年度:令和8年度)
公表方法:法人ホームページにて公開( <a href="https://ef.musashino-u.ac.jp/about/plan/">https://ef.musashino-u.ac.jp/about/plan/</a> )
中長期計画 (名称:学校法人武蔵野大学第一次長期計画 対象年度:2020年度~2029年度) (名称:学校法人武蔵野大学第二期中期計画 対象年度:2025年度~2029年度)
公表方法:法人ホームページにて公開( <a href="https://ef.musashino-u.ac.jp/about/vision/">https://ef.musashino-u.ac.jp/about/vision/</a> )

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/inspection.html">https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/inspection.html</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/accredited.html">https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/accredited.html</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html</a> ）
（概要）仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、文学を学び、文化を理解し、社会で活躍できる表現・伝達能力を身につけた人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html</a> ）
（概要） 文学部では、全学共通科目による学修と本学部教育課程における人間の文化についての学修を通して次に掲げる能力を身につけた学生に「学士（文学）」の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html</a> ）
（概要） 文学部では、現代の世界を生きていく上で必要な幅広い教養と人間の文化についての深い専門的知見及び広い視野を身につけ、それらを基盤とした思考力・表現力・創造力により、文化の継承と発展に寄与し、社会のあり方を問い直すことができる人材を育成するため、全学共通科目による教育を基礎的位置の一部に取り込むとともに、以下の方針に従って文学部の教育課程を編成し、実施します。  1. 人間の文化についてのさまざまな分野における学修を通して、幅広い知識と深く豊かな専門的知見及び広い視野を身につける。 2. さまざまな分野の学修を通じて得た幅広い知識と深く豊かな専門的知見、及び、広い視野に立って物事を見ることができる力を基盤として、他者と自己を理解し、多様な人々のなかで自律的に思考し、課題を多角的にとらえ、論理的にまた創造的に考えることができる力、自らの考えを他者と共有するべく的確に表現し発信することができる力を養う。 3. 幅広い知識と人間の文化についての深い専門的知見及び広い視野、それらを基盤として培った思考力・表現力・創造力により、文化の継承と発展に寄与し、社会のあり方を問い直すことができる力を養う。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページにて公開）
（概要）文学部では、本学学則第二条に記す教育目的を踏まえ、現代の世界を生きていく上で必要な幅広い教養と人間の文化についての深く豊かな専門的知見及び広い視野を身につけ、それらを基盤とした思考力・表現力・創造力により、文化の継承と発展に寄与し、社会のあり方を問い直すことができる人材を育成することを目指しています。そのため、以下のような人の入学を期待します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 文学、文化、言語、芸術などを幅広く学び、価値観や考え方の違いを受け入れ、高度情報化・グローバル化の時代に自らの場所を見つけて活躍しようとする強い意欲と積極性を持つ人</li> <li>• 豊かな感受性を持ち、文章を読み解き他者のことばを理解する力、論理的にまた創造的に考えることができる力、自らの考えを適切なことばをもって表現する力において秀でており、過去の文化を理解し、これからの文化を支え築いていくことに強い関心を持つ人</li> <li>• 本学の伝統を理解し、高い目標を掲げ、人間の文化に関する主体的な学びを通じて自己を磨き、希望と夢を抱いて人生を歩んでいこうとする強い自己研鑽力と持続力を持つ人</li> </ul>

学部等名 グローバル学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html</a> ）
（概要） 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、複数の言語を駆使し、多様な学生や多文化との関わりの中で、広い視野をもってグローバルな視点から問題発見・課題解決ができる人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html</a> ）
（概要） グローバル学部では、所定の卒業要件を満たし、グローバル社会で活躍するのに必要な国際性・国際感覚や異文化理解能力・異文化適応能力を身につけ、複数の外国語運用力を習得した者に学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html</a> ）
（概要） グローバル学部では、社会人として必要な教養や知識を身につけるための「武蔵野 INITIAL（共通科目）」と、人文科学・社会科学諸分野の基礎的な知識を習得するとともにグローバル社会の課題を認識し、その解決策を提案できる能力を養成するための「学科科目」によって教育課程を編成します。また、専門教育は少人数の授業や学生が主体的にかかわるプロジェクト型の授業を中心に展開します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページにて公開）
（概要）本学部は、言語や文化背景が異なる学生が共に学ぶ環境の中で、英語、中国語、日本語の語学力とグローバルな思考を身につけ、世界を舞台に将来活躍できる人材を育成します。よって、以下のような者の入学を求めます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● グローバル社会で活躍する高い意欲を有する者</li> <li>● 異文化コミュニケーションと異文化理解に強い関心を有する者</li> <li>● 語学力を生かして実社会の課題解決に取り組む意欲を有する者</li> <li>● グローバル化が進むビジネスの世界で自身の能力を発揮したいと志す者</li> <li>● 日本の魅力を世界に発信する意欲を有する者</li> </ul>

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html</a> ）
（概要） 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、法律学又は政治学の専門的な知識を養い、普遍的なものの見方、考え方を身につけ、共生の視点を持って課題発見・解決のできる人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html</a> ）
（概要） 法学部では、建学の精神を身につけ、法律学と政治学に関し、学士課程教育の水準を達成した学生に学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html</a> ）
（概要） 法学部は、「新世代法学部」を標榜し、学生個々人が、社会の中の一員として、周囲の人々の利益を意識しつつ自らの幸福を実現することを目標とし、「共生」の精神のもとに社会のリーダーとしてルール創りをしていける人材の育成を目指します。すなわち、個人の幸福追求と公共領域の確立とを両立させることのできる人材育成を行うことをカリキュラム編成の基本方針とし、基礎科目、基幹科目、展開科目を段階的に配置します。世界の問題を解決するため、「問う」「行動する」「カタチにする」「見つめ直す」の4つのステップからなる「響学スパイラル」を実践し、教育・研究効果の向上を図ります。法律学科では法の系統樹に沿って民事基本法から集中的に学ぶ合理的かつ効率的な学びの仕組みを採用し、政治学科では4学期制のメリットを最大限に生かして、留学や学外活動等を容易にしたカリキュラムで国際人の養成を目指します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページにて公開）
（概要）本学部は、法律学、政治学の専門知識を活用して、企業、地域、地方公共団体、国、世界、というあらゆる段階の「自己の属する集団」において、最適なルールを創り、その集団のリーダーとなって、構成員を幸福にしていける人材を育成しようとする「新世代法学部」です。多様な価値観を受け入れ、豊かな想像力をはぐくみ、これからの地球社会の持続可能性等、さまざまな問題に柔軟に対処して、人々と共に幸福を追求しようとする人を求めます。したがって、入学者に求めるものは、人々の価値観の相対性などを理解できる、精神的な成熟度の高さです。さらに、グローバル化の時代に即した能力として、高校時代になるべく英語力をつけてきてほしいと考え、筆記試験型の入試では英語力の比重を高めた評価を実施しています。

学部等名 経済学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html</a> ）
（概要） 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、経済学の専門的な知識を養い、普遍的・科学的なものの見方、考え方を身につけ、共生の視点を持って課題発見・解決のできる人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html</a> ）
（概要） 経済学部では共生の視点に立脚しながら、学科科目を中心に修得した普遍的・科学的方法によって現代社会の課題を発見し、解決できる能力を身につけ、かつ所定の卒業要件を満たした者に学士（経済学）の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html</a> ）
（概要） 経済学部では建学の仏教精神を土台にし、外国語の習得や、社会人として必要な教養や知識を身につけるための「武蔵野 INITIAL」を中心とした「共通科目」と、経済学を中心とする社会科学の普遍的方法を身につけ、専門人としての知見を深めるための「学科科目」によって教育課程を編成します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページにて公開）
（概要）経済学部では建学の理念である仏教精神を基盤に、経済学に関する専門的な知識を修得し、グローバルな視点で現代社会・経済における課題を発見し、その分析・判断および解決に向けた論理的思考力を養います。したがって、入学者には現代社会・経済についての広い問題関心と、普遍的・科学的なものの見方が求められます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自らの疑問を認識し質問する意欲のある者</li> <li>● 他者の疑問や意見をよく聴き、理解できる者</li> <li>● 倫理観を持って社会に貢献したいと考える者</li> </ul>

学部等名 経営学部
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト  <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html</a>）</p> <p>（概要）          仏教精神を根幹として、世界の幸せの実現に向け高い倫理観と共生の視点を育成するとともに、経営学及び会計学における専門知識と技能を修得し、多様で複雑化するビジネス分野及び非営利・公共分野等において、多様な諸問題を発見・解決できる実践的な能力を身につけた人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト  <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html</a>）</p> <p>（概要）          経営学部では、経営学科ならびに会計ガバナンス学科が定める卒業要件を満たし、高い倫理観と共生の視点を身につけ、経営学と会計学における専門知識と技能をもとに多様な諸問題を発見・解決できる実践的な能力を習得した者に学位を授与します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト  <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html</a>）</p> <p>（概要）          社会人として必要な教養や知識を身につけるための「武蔵野 INITIAL（共通科目）」と、経営学科ならびに会計ガバナンス学科がそれぞれ特色ある知識と技能を修得するために展開する「学科科目」によって教育課程を編成します。現代社会の発展の礎にある普遍的・科学的な思考法や研究方法に基づく合理的な思考と、高い倫理観と共生の視点を持って、世界が抱える課題の発見・解決に貢献できる人材の育成を目的とします。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページにて公開）</p> <p>（概要）本学部では、仏教精神を根幹として、世界の幸せの実現に向け高い倫理観と共生の視点を育成するとともに、経営学及び会計学における専門知識と技能を修得し、多様で複雑化するビジネス分野及び非営利・公共分野等において、多様な諸問題を発見・解決できる実践的な能力を身につけた人材を育成します。したがって、入学者には以下のような者を求めます。</p> <p>【経営学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自らの可能性を信じ、挑戦することを恐れない者</li> <li>● 人々との関わり合いの価値を認め、協働を楽しめる者</li> <li>● 未知の存在に好奇心を抱き、探求することを喜ぶ者</li> <li>● 自ら主体的に状況と関わり、責任を持って行動する者</li> </ul> <p>【会計ガバナンス学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高度に専門的な会計の知識を身につけたいと考える者</li> <li>● 営利企業、非営利組織の経営管理に関心を持つ者</li> <li>● 自らの意思で粘り強く物事に取り組める者</li> </ul> <p>社会をよくしようという高い志を持つ者</p>

学部等名 アントレプレナーシップ学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html</a> ）
（概要） 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、起業家精神（アントレプレナーシップ）を抱き、既存の枠を超えて新たな価値を創造できる実践的な能力を身につけた人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html</a> ）
（概要） アントレプレナーシップ学部では、所定の卒業要件を満たし、かつ変革期を機会と捉え、社会に対して傍観者でとどまることなく高い倫理観と志を抱いて自ら課題を設定、事業構想し自立自走することで「ことを成す」実践的な能力を身につけた者に学士（ビジネス）の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html</a> ）
（概要） アントレプレナーシップ学部では、仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、起業家精神（アントレプレナーシップ）をもって、新たな価値を創造できる実践的な能力を身につけた人材を養成するため、武蔵野 INITIAL で教養、データ AI/活用及びプログラミングの知識を育み、学科の専門教育では、事業推進スキル、領域別専門知識、アントレプレナーシップ（起業家精神）、思考力（論理的思考・創造的思考力）、意思決定力、課題解決力、PDCA 力、コミュニケーション力/マネジメント力などの専門的な知識・能力を体系的に修得できるよう教育課程を編成し、実施します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページにて公開）
（概要）本学部では、仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、起業家精神（アントレプレナーシップ）を抱き、既存の枠を超えて新たな価値を創造できる実践的な能力を身につけた人材を育成します。したがって、入学者には以下のような者を求めます。 自らの可能性を信じ、何者かになりたい/社会に働きかけたいと思っている者 人々との関わり合いや多様性を認め、協働を楽しめる者 あきらめずに考え抜き、やり抜こうとする意思のある者 未知のものに好奇心を抱き、挑戦しようとする行動できるバイタリティーのある者

学部等名 データサイエンス学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html</a> ）
（概要） 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、データ、メディアコンテンツ及びそれらの分析・統合による「知の創造」を対象とする新しい学術を志向し、多くの応用の発展を実現できる人材を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html</a> ）
（概要） データサイエンス学部では、以下の要件を満たし、所定の卒業要件を満たした者に学士（データサイエンス学）の学位を授与します。 1. 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を身につけていること。 2. データ、メディアコンテンツ及びそれらの分析・統合による「知の創造」を対象とする実践知を持続的に学習する能力を身につけていること。 3. データサイエンスの学術的な知識やスキルを活用し、多様な社会的応用を具現化できる能力を身につけていること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html</a> ）
（概要） データサイエンス学部学位授与方針に示す人材育成目標を達成すべく、人工知能(機械学習)の可能性を取り込んだ最先端のデータサイエンス学の構築を目標にその理念に基づいたカリキュラムを編成し実施します。 教育カリキュラムの基本構図は以下の 3 つです。 ・「テーマを選ぶ」： 広く実世界の 이슈を直接知る機会を提供することにより自分の問題意識を育成し、学部での学習テーマを選ぶことを支援する科目群を提供すること。 そのために教養科目群（武蔵野 INITIAL)の CHP 科目群および世界体験を通じたフィールドスタディーズ科目群を活用するとともに、2年次生からの社会体験プログラムも用意しています。 ・「知識とスキルを学ぶ」： データ(工学)と人工知能(工学)を二本柱とした多様な知識とスキル(先進的なツール)を実践的かつ反復的に学習するインターディシプリナ科目群を提供します。 ・「価値創出を実践する」： 自分の選んだ、実世界 이슈を、学んだスキルと知識を活用して、社会的な価値を創るプロジェクト型学習の科目群を 1 年次から提供し、社会実装を経験します。 さらに、学習者本位の教育を実現すべく、教育・学習の基本的な方法論については、試行錯誤プロセス、アウトプット志向を重視する「アジャイル教育」、自律的・能動的な学習を促すグループ協調学習などを専門科目の全科目で統一的に導入します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページにて公開）
（概要）本学部では、SDGs に代表される多様分野においてデータサイエンスを駆使した課題発見と人工知能を活用した課題解決や価値創造を担う創造的活動を先導する人材を育成します。そのため、以下のような能力・意欲を有する人の入学を求めます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自らグローバル（大局的）かつディープ（深層的）な発想で SDGs に代表される自然環境・社会環境における多様な課題を発見し、解決しようとする意欲を持つ者</li> <li>・ 社会で活躍するためのリーダーシップ力を身につけている者</li> <li>・ 社会で活躍するための柔軟性とストレス耐性を身につけている者</li> </ul>

学部等名 人間科学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/purpose.html">https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/purpose.html</a> ）
（概要） 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、人間が直面する歴史的・社会的諸課題を、心理、生命、社会、福祉などの側面から科学的に理解し、実践的に解決できる人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html</a> ）
（概要） 人間科学部では、以下の要件を満たし、各学科所定の単位を修得した者に学位を授与します。 1. 科学的、論理的な思考能力と人間に関する多面的、専門的な知識を身につけていること。 2. 人間が直面する歴史的、社会的諸課題を分析し、主体的、実践的に解決できる力を身につけていること。 3. 真の人間尊重の立場にたち、これらの知識と能力を社会のために活用できる総合的な人間力を身につけていること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html</a> ）
（概要） 「武蔵野 INITIAL」（全学共通基礎課程）において学部の専門教育に必要な基礎力を修得するために必要な科目を配置するとともに、専門教育においては、人間が直面する歴史的・社会的諸課題を心理、生命、社会、福祉などの側面から科学的に理解し、実践的に解決できる力を身につけるために必要な専門科目を年次進行にそって段階的・体系的に配置することを教育課程編成の基本方針とします。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページにて公開）
（概要）本学部は、人間科学、社会福祉学等の学びを通して、人間尊重の立場から、社会の諸課題を分析し、解決して行けるような総合的な人間力を備えた人材を育成します。それぞれの学科によって、大学教育における目標、入学者に求める能力は異なりますが、ここでは学部に通ずる求める能力について挙げています。人間科学部が求める者は以下のような能力、意欲を持つ者です。 人間の心理、生命、社会、福祉に関心を持ち、多面的に学びたいという意欲を持った者。 基礎となる教養に幅広く触れようとする姿勢を有しており、基本的な学力を持つ者。情報を自ら蒐集しようとする姿勢を持つ者。他者の考えを聞き、自らの考えを述べ、文章に表すことの出来る者。

学部等名 ウェルビーイング学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html</a> ）
（概要） 仏法の真理観を根幹として、人間の抱える根源的な苦悩からの解放を見据えつつ、学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、科学や技術の最先端の知見や成果も取り入れた学際的なアプローチによって、幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など、人々と世界のウェルビーイングをデザインし、創造していく人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html</a> ）
（概要） ウェルビーイング学部は、産業革命以来の経済成長重視型社会から生きとし生けるもののウェルビーイングを最優先する社会への大きな転換点である現代社会をリードするために、「生きとし生けるものがウェルビーイング（幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など）に満ち溢れた世界」を創造的にデザインできる人材を育成することを目的とし、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に適合する者に学士の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html</a> ）
（概要） ウェルビーイング学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するために、「生きとし生けるものがウェルビーイング（幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など）に満ち溢れた世界」を創造的にデザインする能力を修得できるよう教育課程を編成・実施しています。1年次から武蔵野 INITIAL で教養を育むとともに、専門科目では、ウェルビーイングに満ち溢れた世界を創造的にデザインするという最上位の目的に即した形で全科目を学びます。基盤となる知識の修得と実践からの学びをバランスよく取り入れるために、基盤科目群、探究する科目群、創造する科目群という、全体としての理念と要素としての学びの関係を常に明確に意識しやすいことを目指したシンプルな科目群構成としています。さらに、知識の修得と感性の陶冶をバランスよく行うために、古来の「道」のホリスティックな学び方から近代以降の教育の分解型・分析型の方法論まで、様々な教育方法論を統合することによって、入門から発展まで（1年次が入門、2年次が基礎、3年次が応用、4年次が発展）、アート（人文科学、芸術）からサイエンス（社会科学、自然科学）まで、過去（哲学や歴史）から未来（科学技術や創造性開発）まで、という俯瞰的・全体的な学問構造を科目構成に反映することによって、国際社会の人類史的な構造変化に先鞭をつけることを目指したカリキュラムとしています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページにて公開）
（概要）ウェルビーイング学部は、産業革命以来の経済成長重視型社会から生きとし生けるもののウェルビーイングを最優先する社会への大きな転換点である現代において、「生きとし生けるものがウェルビーイングに満ち溢れた世界」を創造的にデザインする気概を持った者の入学を求めます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● ウェルビーイングに満ち溢れた世界を創りたいという情熱と利他心のある者</li> <li>● 大きな時代変化を担っていききたいという野心と挑戦心のある者</li> </ul>

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html</a> ）
（概要） 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、専門的な知識を養い、持続可能な社会構築に向けて主体的に参画し、工学的手法により課題解決のできる人材を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html</a> ）
（概要） 工学部では、希望が持てる未来を築くために、持続可能な社会に求められる、サステナビリティ、数理工学、または建築デザインの知識と技術を修得し、工学的アプローチから課題解決ができる力を身に付け、かつ、所定の卒業要件を満たした者に学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html</a> ）
（概要） 工学部では、学修の基礎力を養うための「武蔵野 INITIAL」の諸科目に続き、持続可能な社会に求められる、サステナビリティ、数理工学、または建築デザインの知識と技術を修得し、工学的アプローチから課題解決ができる力を身に付ける「学科科目」を体系的に編成した教育課程を適切に実施します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： 本学ホームページにて公開 ）
（概要）本学部は、希望が持てる未来を築くために、持続可能な社会に求められる、サステナビリティ、数理工学、または建築デザインの知識と技術を身に付け、工学的アプローチから課題解決ができる人材を育成する。したがって、選択する学科に対する明確な志望動機に加えて、自身を超えた困難な課題に果敢に挑戦する勇気と、諦めずに創意工夫し続ける粘り強さを持った者を求める。

学部等名 教育学部
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト  <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html</a>）</p> <p>（概要）          仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、幅広い視野を持って教育及び教育支援に携わることのできる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト  <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html</a>）</p> <p>（概要）          教育学部では、学識・情操・品性に優れた人格、教育に対する幅広い視野、そして保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭にふさわしい汎用的能力を身につけた学生に学位を授与します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト  <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html</a>）</p> <p>（概要）          教育学部では、社会人として必要な教養や知識を身につけるための「武蔵野 INITIAL（共通科目）」と保育ならびに教育の本質を学び研究する理論科目と保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭のための実践科目とでカリキュラムを構成しています。また、保育・教育実践を複数単位化し、数多くの実践経験を踏まえて現場に立つことを目指しています。これらのカリキュラムを履修することで、保育・教育にふさわしい汎用的能力を身につけることを目指しています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページにて公開）</p> <p>（概要）本学部は、子供の成長・発達を深く理解し、子供や保護者と円滑にコミュニケーションがとれる保育・教育の専門家を育成します。子供の成長や発達を長いスパンでとらえ、保育・教育の過程を全体的、多角的に理解していく意欲・柔軟性・知的好奇心を持った者を求めます。</p>

学部等名 薬学部
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト  <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html</a>）</p> <p>（概要）          仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、慈悲の心を持ち、多様な薬学関連分野で人々に貢献できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト  <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html</a>）</p> <p>（概要）          薬学部では、所定の卒業要件を満たし、かつ、薬学知識に加え、高度な専門知識と実践力、高い倫理性を兼ね備えている学生に、学士（薬学）の学位を授与します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト  <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html</a>）</p> <p>（概要）          医療の一翼を担う人材として、確かな知識・技術と高い倫理観をもつ薬剤師を育成するために、カリキュラム体系を「武蔵野 INITIAL」（基礎的な共通科目）と「学科科目（専門科目）」に区分し、学科の専門科目は「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を基本として、薬学の専門的な知識・能力を体系的に修得できるよう教育課程を編成し、実施します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページにて公開）</p> <p>（概要）本学部は、教養教育から基礎薬学教育、医療薬学教育へと系統的な教育を行うことで、医療人としての高い倫理観と高度な専門知識を兼ね備えた実践力のある薬剤師を育成することを目的としています。わが国の医療の一翼を担う人材として、薬学の知識修得に必要な基礎学力を有するとともに、人間性豊かで高い志を持ち、広く社会に貢献しようという意欲を持った者を求めます。</p>

学部等名 看護学部
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト  <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html</a>）</p> <p>（概要）          仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、人の「生老病死」と看護は密接に関係することを認識し、人々の健康及び福祉の向上に貢献できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト  <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/policies.html</a>）</p> <p>（概要）          看護学部では、仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれ、人の「生老病死」に関係することを認識し、人々の健康及び福祉の向上に貢献でき、かつ、所定の要件を満たす者に学士（看護学）の学位を授与します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト  <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/policies/curriculumpolicy.html</a>）</p> <p>（概要）          看護学部では、仏教精神を基盤とした人間性豊かな専門職の育成を目的として、教養教育及び看護学の専門教育を体系化したカリキュラムを編成する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページにて公開）</p> <p>（概要）本学部は、「慈悲の心」を持ちながら、人の生老病死に寄り添い、痛みや苦しみ、喜びや楽しみをともに分かち合える豊かな人間性と倫理観、そして確かな専門知識・技術に裏打ちされた実践力を兼ね備えた看護師を育成します。看護専門職に必要な基礎的能力を身につけ、社会のさまざまな領域で人々の健康及び福祉の向上に貢献できる看護実践者及び将来の看護指導者を目指す者を求めます。</p>

<p>学部等名 通信教育部（人間科学部）</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：  【大学 WEB サイト】 <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html</a>  【通信 WEB サイト】 <a href="https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/human_sciences/">https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/human_sciences/</a>）</p>
<p>（概要）  現代社会や現代人が抱える心の問題を心理学、仏教学又は社会福祉学の側面から考え、人間の心の本質を探究し、総合的視野で深く人間を理解できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：<a href="https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/human_sciences/">https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/human_sciences/</a>）</p>
<p>（概要）  通信教育部人間科学部  通信教育部人間科学部では、以下の要件を満たし、各学科・専攻所定の単位を修得した者に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論理的・科学的な思考能力と、人間に関する多面的で専門的な知識を身につけていること。</li> <li>2. 人間が直面する歴史的・社会的諸課題を分析し、主体的かつ実践的に解決できる力を身につけていること。</li> <li>3. 真の人間尊重の立場にたち、これらの知識と能力を社会のために活用できる総合的な人間力を身につけていること。</li> </ol> <p>人間科学科（専攻共通）  心理学・仏教学・社会福祉学の知識を修得し、人間尊重と科学的人間理解にもとづき行動・実践し、社会に貢献する人材を育成します。</p> <p>具体的には、人間尊重の精神、主体性、思考力、実践力を育成します。</p> <p>専門能力について、仏教、人間の心理、社会のシステムや歴史、制度・専門職倫理などの知識に依拠した、総合的な人間理解力を修得します。</p> <p>人間尊重の精神について、仏教精神にもとづく人間尊重の倫理・道徳観・価値観を身につけます。</p> <p>主体性について、人間が直面する様々な問題を自ら積極的に考え、継続してその解決に取り組む力を身につけます。</p> <p>思考力について、自ら設定した課題の情報を適切に収集・分析し、解決に向けて科学的、論理的に考える力を身につけます。</p> <p>実践力について、自らの考えを明確かつ論理的な文章にまとめ、分かりやすい発信・発表・表現を行う力、倫理や専門知識を基盤とした専門職としての姿勢や行動を行える力を身につけます。</p> <p>その上で、社会に貢献する人材、大学院等に進学する人材を育成します。</p> <p>心理学専攻  建学の仏教精神に基づいた人間尊重の立場に立った学修を行い、所定の単位を修得すると</p>

ともに以下の要件を満たした者に学位を授与します。

- ・心理学の基本的知識、体系的知識を身につけていること
- ・医療、産業、教育、社会福祉等々の各分野において心理学およびメンタルヘルス、カウンセリングの基本的な知識と技術を用いて貢献できること

#### 仏教学専攻

建学の仏教精神にもとづいた人間尊重の立場に立った学修を行い、所定の単位を修得するとともに以下の要件を満たした者に学位を授与します。

- ・仏教思想や仏教文化に関する総合的・体系的な知識を身につけていること
- ・宗教関連、教育関連、メディア関連、社会福祉関連、等々の各分野において仏教精神に依拠した専門性を発揮しながら、自立した職業人として活躍できる資質と能力を有すること

#### 社会福祉専攻

建学の仏教精神に基づいた人間尊重の立場に立った学修を行い、所定の単位を修得するとともに以下の要件を満たした者に学位を授与します。

- ・社会福祉の理念－制度－実践、ソーシャルワークの専門的価値及び倫理－知識－技術、ミクローメゾマクロレベルといった重層のかつ包括的な学びを通して、社会福祉およびソーシャルワークの基本的な倫理・価値観・知識・技術を身につけていること
- ・社会変革の担い手となるマインドを身につけていること
- ・支援者としての自己の価値観を見つめられる技術を身につけていること

#### DP1. 知識・専門性 【学びの基礎力を基盤とした専門能力】

- ・自ら教養・基礎学力を修得し、自立的・主体的に学ぶことができる【教養・基礎学力】
- ・人間の心理や行動を科学的に理解し、心理学的知識に基づいた総合的な人間理解力を修得している【心理学専攻：専門能力】
- ・仏教思想や仏教文化に基づいた総合的・体系的な人間理解力を修得している【仏教学専攻：専門能力】

- ・社会福祉に関する理念－制度－実践、ソーシャルワークの専門的価値及び倫理－知識－技術をミクローメゾマクロのレベルで体系的に理解し、他者に説明し実践できる【社会福祉専攻：専門能力】

#### DP2. 関心・態度・人格 【他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力】

- ・自己と他者への深い洞察にもとづいて、多様な価値観を尊重し、社会において様々な人々と円滑な関係を築くことができる。【自己認識力・他者理解力】
- ・社会における諸課題を発見し、共感的理解にもとづいて課題を分析・説明することができる【課題発見力】
- ・人間が直面する様々な問題について自ら積極的に考え、継続してその解決に取り組むことができる。【主体性・実行力】
- ・人間社会のストレスの問題について理解し、自己の心理的課題について対処することができる【ストレスコントロール力】
- ・人間尊重と社会正義の実現に向けて行動しようとする意志を持ち、仏教精神にもとづく人間尊重の倫理・道徳観・価値観を身につけている。【人格形成・使命感】

#### DP3. 思考・判断 【課題を多角的に捉え、創造的に考える力】

- ・適切に情報を収集・分析し、かつ建設的な議論を踏まえ、課題解決に向けて科学的・論理的に考えることができる。
- ・【情報分析力・論理的思考力】
- ・自ら設定した課題について、心理学・仏教学・社会福祉学の立場から多角的な理解と提案ができる。【創造的思考力】

#### DP4. 実践的スキル・表現 【多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力】

- ・専門的知識と実践力にもとづく共感的なコミュニケーションを通して、様々な人々と相互理解を深めることができる。【コミュニケーション力】
- ・自らの考えを、読み手・聞き手の立場に立った明確かつ論理的な文章や図表にまとめ、分かりやすい発表・情報伝達をおこなうことができる。【表現力・プレゼンテーション力】
- ・目的の実現に向けて、人間に対する深い理解にもとづき、他者と協力・協働しながら課題に取り組むことができる。【傾聴力・リーダーシップ・チームワーク力】

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/human\\_sciences/](https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/human_sciences/)）

（概要）

#### 人間科学部

通信教育部人間科学部では、人間尊重の立場から、社会の諸課題を分析し解決に向けて、貢献できる総合的な人間力を備えた人材を養成するため、共通科目で専門教育に必要な基礎力を育み、専門教育では、心理学、仏教学、社会福祉学などの専門的な知識・能力を体系的に修得できるよう次の通り教育課程を編成し、実施する。

- ・一般教養を学ぶ「共通科目」において学部の専門教育に必要な基礎力を修得するために必要な科目を配置する。
- ・専門科目を学ぶ各専攻の「学科科目」においては、人間が直面する歴史的・社会的諸課題を心理学、仏教学、社会福祉学などの側面から論理的・科学的に理解し、実践的に解決できる力を身につける。そのために必要な専門科目を年次進行にそって段階的・体系的に配置する。
- ・各科目の学修内容に即した、適切な学修方法を設定する。「テスト（科目）」では専門知識の定着を、「レポート（科目）」では論理的思考や文章表現能力の醸成を、「スクーリング（科目）」では教員や学生との双方向の学修によるアクティブな思考と言語的表現の醸成を、それぞれねらいとする。科目により複数の学修方法を組み合わせる。
- ・演習科目、実験科目、実習科目、研修科目等の設定により、学生の参加や実践を通じて、知識と経験をつなげる「アクティブラーニング」を推進する。

#### 人間科学科（専攻共通）

心理学・仏教学・社会福祉学の知識を修得し、人間尊重と科学的人間理解にもとづき行動・実践し、社会に貢献する人材に求められる知識・能力を育成するため、以下の教育課程を編成する。共通科目では、建学の仏教精神を培う「建学科目」（必修）、テーマに沿って学び、思考力や表現力などの能動的な能力、問題発見・解決能力を伸ばす「セルフディベロップメント科目」、外国語やメディアに関する「コミュニケーション科目」を体系的に履修する。各専攻において心理学、仏教学、社会福祉学の専門科目を学ぶ前提として、SDGs や共生に関する知識を含めた社会および人間についての教養について、理解を拡げ、深める。学科科目は、それぞれの専攻において、専攻の学修の基礎・基幹となる「必修科目」と、学修者の関心に沿って選択される「選択科目」によって編成されている。基礎科目および基幹科目は、主に1年次と2年次に配当され、応用・実践力を身につけさせる選択科目との連携を図っている。

また、授業の実施にあたっては、「テスト（科目）」では専門知識の定着を、「レポート（科目）」では論理的思考や文章表現能力の醸成を、「スクーリング（科目）」ではアクティブな思考と言語的表現の醸成をそれぞれ行い、論理的・科学的な思考能力と人間に関する多面的で専門的な知識を身につけていること、人間が直面する歴史的・社会的諸課題を分析し、主体的かつ実践的に解決できる力を身につけていること、真の人間尊重の立場にたち、これらの知識と能力を社会のために活用できる総合的な人間力を身につけていること、という学位授与方針に定める能力・知識を養う。

#### 心理学専攻

心理学専攻の学科科目には、学修者が目的や関心に合わせて入学時に選択する、「スタンダード心理学コース」「臨床発達心理コース」「カウンセリングコース」「看護・医療心理コース」「産業カウンセリング／キャリア・コンサルティングコース」の5つのコースにより、その領域に特有の専門科目が配置されている。心理学専攻学科科目は、「コース共通科目」と、5つのコースの学修の中心となる科目群から構成される。

コース共通科目は、心理学の基礎を学ぶ「基礎科目」・「基幹科目」・「専攻科目」、履修者の学修関心を発展させる「発展科目」「仏教学専攻選択科目」「卒業研究」から構成されている。

各コースには、コースの基軸となる「基幹科目」および「領域の基礎」科目、そして「専門・応用」科目から構成されている。

各コースの科目は選択科目として設定され、履修者の関心に応じて入学 2 年目以降に選択したコース以外の科目も履修可能である。

所定の科目を履修すると申請資格「認定心理士」の取得が可能である。

#### 仏教学専攻

仏教学専攻の学科科目は、「基礎科目」「仏教基礎科目群」「浄土教科目群」「仏教思想科目群」「仏教文化科目群」、そして「浄土真宗本願寺派教師資格科目群」「人間科学科目群」から構成されている。

必修である「基礎科目」で仏教学の基礎を固める。「仏教基礎科目群」「浄土教科目群」「仏教思想科目群」では、「入門」科目、「読む①」「読む②」科目を連携して履修し、各経典について理解を深める。発展の自由研究として「仏教聖典を語る」を履修し各経典について履修者自身が解釈を行う。また、「仏教文化科目群」では文化や実践を通して仏教の理解を深める。

所定の科目および「浄土真宗本願寺派教師資格科目群」を履修することで、浄土真宗本願寺派教師資格に必要な単位を満たすことが可能である。「人間科学科目群」では現代社会における生・老・病・死について理解を深める。

#### 社会福祉専攻

社会福祉専攻の学科科目は、「社会福祉系科目」「演習・実習系科目」「実践系科目」「自己育成能力開発科目」「認定心理士科目」「心理・仏教学系科目」から構成されている。

「社会福祉系」科目は、必修のテスト科目を中心に、社会福祉およびソーシャルワークに関する理念・制度・技術に関する基礎的知識を得る。「演習・実習系科目」では、レポート作成により実践的思考を涵養する。また、現場実習（「ソーシャルワーク実習1・2」および「ソーシャルワーク実習指導1・2・3」）では、実践経験を通してソーシャルワークの現場での意味や役割、支援者（ソーシャルワーク専門職）としての自己の思考や姿勢について理解を深める。「実践系科目」では、社会福祉系科目で学んだ知識を、より実践的な理解を深める。「自己育成能力開発科目」では、既存の知識の確認や新しい知識の補強を行う。

所定の科目を履修することにより、国家資格「社会福祉士」の受験資格を得ることができる。

また、「認定心理士科目」では隣接の心理学の知識を得るとともに、所定の単位を履修し申請資格「認定心理士」の取得を可能としている。「心理・仏教学系科目」では選択により、実践的な仏教に関する科目を含め、重層的・包括的な学修を深める。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/human\\_sciences/](https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/human_sciences/)）

（概要）

通信教育部人間科学部では、人間尊重の立場から、社会の諸課題を分析し解決に向けて、貢献できる総合的な人間力を備えた人材を育成します。

年齢・年代や地域、時間等に縛られないインターネットを介した通信教育では、自己管理のもとで学修を進行していきます。

通信教育部人間科学部が求める者は、以下のような能力、意欲を持つ者です。

1. 人間の生き方、哲学、心理、社会、福祉に関心を持ち、多面的・積極的に学びたいという意欲を持つ者
2. 基礎となる教養に幅広く触れようとする姿勢を有しており、基本的な学力を持つ者
3. 通信教育課程に積極的に取り組む姿勢を持ち、達成能力を持つ者
4. 自主的に時間管理ができる者
5. 社会に貢献する意欲を持つ者
6. 情報を自ら収集し、自ら考えようとする姿勢がある者
7. 他者の考えを聞き、自らの考えを述べ、文章に表すことのできる者

学部等名 通信教育部 (教育学部)
<p>教育研究上の目的 (公表方法 :</p> <p>【大学 WEB サイト】 <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html</a></p> <p>【通信 WEB サイト】 <a href="https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/education/">https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/education/</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>児童生徒の成長・発達に関する知識を学習し、児童生徒を健やかに育むための技術と実践力を身につけ、教育とその支援活動を行える、高い人格と専門的な実践力・企画力をもった教育者の育成を目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : <a href="https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/education/">https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/education/</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>教育学部</p> <p>通信教育部教育学部では、学識・情操・品性の優れた人格、教育に対する幅広い視野、そして小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭にふさわしい汎用的能力を身につけた学生に学位を授与する。</p> <p>教育学科</p> <p>教育学科では、所定の 124 単位を修得し、以下の要件を備える者に学士 (教育学) の学位を授与する。論、高等学校教諭にふさわしい汎用的能力を身につけた学生に学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小学校教諭免許状又は中学校・高等学校教諭免許状の取得を前提として、自己の目指す資格・免許の取得に必要な知識と技術を身につけていること。</li> <li>2. 児童期あるいは青年期の子どもの発達を特に深く理解するとともに、児童期から青年期までの子どもの発達全体の見通しを持つことができる者。</li> </ol> <p>DP1. 知識・専門性 【学びの基礎力を基盤とした専門能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら教養・基礎学力を修得し、自立的・主体的に学ぶことができる【教養・基礎学力】</li> <li>・自ら子どもの成長や発達を理解し、社会環境の変化に対応できる知識と実践力を身につけている。【専門能力】</li> <li>・自ら教育の原理や方法を身につけ、集団的及び個別的に実践できる専門的能力を修得している。【専門能力】</li> </ul> <p>DP2 関心・態度・人格 【他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら問題意識を持ち、教育を実践することができる。【主体性・実行力】</li> <li>・社会に貢献できるような柔軟性と心身を自己管理する力を身につけている。【ストレスコントロール力】</li> <li>・教育者としての倫理観、使命感を持っている。【人格形成・使命感】</li> </ul> <p>DP3. 思考・判断 【課題を多角的に捉え、創造的に考える力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら幅広い分野の知識を身につけ、教育状況を多角的、論理的に分析できる。【情報分析・論理的思考力】</li> <li>・様々な教育の状況に応じて、新たな方法を模索することができる。【創造的思考力】</li> </ul> <p>DP4. 実践的スキル・表現 【多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育場面で言語・非言語メッセージを読み取り、豊かなコミュニケーションができる。【コミュニケーション力】</li> <li>・授業計画を立て、教材や授業に表すことができる。【表現力】</li> <li>・自らの考えを明確に話したり、書いたりすることができる。【表現力】</li> </ul>

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/education/>）

（概要）

教育学部

通信教育部教育学部では、学部の専門教育に必要な基礎力を修得するために共通科目を編成するとともに、専門教育においては、子どもを育み、教える立場に立つ者が備えるべき資質の育成並びに教員として実践力・即戦力を育成するためのカリキュラムを編成する。

- ・「教科及び教科の指導法に関する科目」では、各教科の学修指導を行う際に必要な基礎的・基本的な知識・技能並びに指導法を履修する。
- ・「教育の基礎的理解に関する科目」では、教育観、指導観、児童観等を深め、児童・生徒の将来にかかわる責務を負う教師としての使命感を培う。
- ・「道徳、総合的な学修の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」では、一人一人の児童・生徒を認め、励まし、伸ばす指導について理解を深め、豊かな人間性を育む指導について履修する。
- ・「教育実践に関する科目」では、教育実習などを通じて、実践力を身に付ける。

教育学科

通信教育部教育学科では、共通科目を踏まえ、専門教育として学科の小学校専修、国語科専修、英語科専修の各専修に対応して、以下のようにカリキュラムを編成する。教職においては、円滑な人間関係の構築やコミュニケーション能力が極めて重要なため、スクーリングでは協議・討議等の他者とかかわる活動を重視し、学識・情操・品性の優れた人格、教育に対する幅広い視野、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭にふさわしい汎用的能力を身につけるといふ学位授与方針に定める能力・知識を指導する。

1. 学科の共通科目では、建学の精神を培う「建学科目（必修）」、テーマに沿って学び、思考力や表現力などの能動的な能力、問題発見・解決能力を伸ばす「セルフディベロップメント科目」、外国語と体育に関する「コミュニケーション科目」「健康体育科目」を体系的に履修させ、国際化や体力が脆弱化した現代社会に対応できる能力を身につけさせる。
2. 小学校専修は、小学校教諭を養成する専修であり、児童期の心身の発達に関する科目と初等教育に関する科目を置く。
3. 国語科専修は、中学校教諭（国語）・高等学校教諭（国語・書道）を養成する専修であり、青年期の心身の発達に関する科目と中等教育に関する科目を置く。
4. 英語科専修は、中学校教諭（英語）・高等学校教諭（英語）を養成する専修であり、青年期の心身の発達に関する科目と中等教育に関する科目を置く。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/education/>）

（概要）

教育学部

子どもの発達を長いスパンでとらえ、教育と学習の過程を全体的、多面的に理解していく意欲を持った者を求める。

教育学科

入学者の受け入れ方針として、以下のような能力・意欲を有する者を求める。

1. 初等教育から中等教育まで幅広い視野に立って多角的に教育現場を捉え、教育及び教育支援に携わることを目指す者。
2. 専門知識・技術はもちろんのこと、幅広い人間性やコミュニケーション能力、広い視野を持った教育のスペシャリストを目指す者。
3. 子どもがどのように育っていくのかを長いスパンで見通すことで、教育、教育支援の対象を子どもだけではなく、保護者や地域の方々を対象と考えられることを目指す者。

入学者選考は、上記方針に基づいて、下記に挙げる点に留意して実施する。

1. 教育学科の教育方針に相応しい人材を多面的に審査・評価する。
2. 基礎学力と専門教育に関係する教科の理解度、並びに人物の適性等について審査・評価する。
3. 学力だけでは見出すことのできない能力や意欲、将来の可能性等を現在の活動状況等から審査・評価する。  
また、通信教育では、年齢・年代や地域、時間等に縛られないインターネットを介し、自己管理のもとで学修を進行していくため、以下のような能力、意欲を持つ者を求める。

1. 人間の生き方、哲学、心理、教育に関心を持ち、多面的・積極的に学びたいという意欲を持つ者
2. 基礎となる教養に幅広く触れようとする姿勢を有しており、基本的な学力を持つ者
3. 通信教育課程に積極的に取り組む姿勢を持ち、達成能力を持つ者
4. 自主的に時間管理ができる者
5. 社会に貢献する意欲を持つ者
6. 情報を自ら収集し、自ら考えようとする姿勢がある者
7. 他者の考えを聞き、自らの考えを述べ、文章に表すことのできる者

学部等名 通信教育部 (国際データサイエンス学部)
教育研究上の目的 (公表方法 : <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html">https://www.musashino-u.ac.jp/basic/purpose.html</a> ) (概要) データサイエンス分野に関する専門的知識、基礎・専門技術、社会応用力を有し、データ分析技術を駆使し、課題発見・解決、イノベーション創造を高い倫理観をもって、国際協働を通じて実現できる能力を習得する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/academics/faculty/international_data_science/data_science/policy.html">https://www.musashino-u.ac.jp/academics/faculty/international_data_science/data_science/policy.html</a> ) データサイエンス学科では、所定の卒業要件を満たし、以下の能力を修得した者に学士 (データサイエンス学) の学位を授与します。
<p>1 知識・専門性 【学びの基礎力を基盤とした専門能力】</p> <p>a. データサイエンスにおける各概念を理解するための基礎学力を身につける。【基礎力】</p> <p>b. データサイエンス分野に関する専門的知識・スキル・分析力・リテラシー・感性を有し、次世代の高度情報社会とグローバル社会を担うに十分な能力を修得する。【データサイエンスの専門性】</p> <p>2 関心・態度・人格 【他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力】</p> <p>a. 持続可能な社会構築に向けて、主体的に社会参画し、一般社会を啓発できる。【主体性・実行力】</p> <p>b. 社会で活躍するための柔軟性とストレス耐性を身につけている。【ストレスコントロール力】</p> <p>3 思考力・判断力 【課題を多角的に捉え、創造的に考える力】</p> <p>a. 自らグローバルな視野でデータサイエンスに関する諸問題を発見することができる。【課題発見力】</p> <p>b. 広範な領域や分野 (社会、環境、科学技術、経営、医療、教育、経済、政策、国際関係) における多様な 이슈、つまり、「何を考え、論じるべきか」を判断することができる。【論理的思考力・判断力】</p> <p>3. 多種多様にして膨大なデータを人工知能技術を用いて抽出・分析・発信することにより、イシューの解決をはかる能力を身につけている。【情報分析力・課題解決力】</p> <p>4 交感力・発信力 【多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力】</p> <p>a. 複雑なデータから迅速かつ適切に多様な状況的・文化的文脈 (コンテキスト) に応じた有益な知識を抽出・分析・発信することができる。【表現力】</p> <p>b. 実社会を先導する大きなビジョンを示しつつ、同じ問題意識を持つ者同士との対話を通じて、新たな社会実現に向けて実行できる。【リーダーシップ・チームワーク】</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.musashino-u.ac.jp/academics/faculty/international_data_science/data_science/policy.html">https://www.musashino-u.ac.jp/academics/faculty/international_data_science/data_science/policy.html</a> )
データサイエンス学科では、卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) を実現するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。
<p>1 知識・専門性 【学びの基礎力を基盤とした専門能力】</p> <p>共通科目 (武蔵野 INITIAL) (建学、アカデミック・スキル、情報、外国語) において、大学での学びの基礎力を身につけます。また、英語の選択科目や日本語科目で大学での学びの上で必要な外国語を強化します。さらに、全学教養講座において大学での学びにふさわしい広い知的視野を獲得します。</p>
学科科目においては、データサイエンスの基礎知識を修得する科目に加え、データサイエ

ンスのビジョンを展開する科目を設置し、データサイエンスがどのようなものであるかを理解するための基礎学力や学修方法を身につけます。研究体験連動型学習（対応科目、未来創造プロジェクト）により、グローバルな研究テーマを対象とした取り組みによって、国際的課題とそれらに関連する知識、解決のための技術を習得します。

また、学生が目指す人材像に応じて展開される3つのコース〈AI クリエーション・コース〉、〈AI アルゴリズムデザイン・コース〉、〈ソーシャルイノベーション・コース〉を履修モデルとして提供し、単なる知識の修得だけでなく、講義と実践的な演習での研究体験連動型学習を通じて、学んだ基礎的な知識や技術を活用していくことで、データサイエンス分野に関する分析力・リテラシー・感性を培い、データサイエンスの専門性を身につけます。さらに、社会と連携協力した社会連携プログラムを2年次から広範に教育のあらゆる局面で取り入れ、次世代の高度情報社会とグローバル社会のリアリティを直接学ぶとともにロールモデルによる学びや触発の機会を多面的に提供します。

## 2 関心・態度・人格 【他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力】

共通科目（武蔵野 INITIAL）において、CHP 科目で社会環境・自然環境の問題を発見する力を身につけます。また、学科科目においては学修者本位の教育を全面的に採用します。具体的には、学生自身の自律的・能動的な行動・学修姿勢を引き出すことで、社会を啓発する能力と柔軟性とストレス耐性を身につけるために、

- ・持続可能な社会構築に向けて主体的に社会参画するための専門性を身につける科目を配置します。
- ・未来創造プロジェクトにおいて、グループ協調学習を全科目の基軸的な教育スタイルとして全面的に展開します。
- ・科目の枠組を越えた、学科の学生教職員が学びあう「実践学習コミュニティ」を情報空間上に構築し、多面的で密度の高い情報共有やコミュニケーションの場を提供します。
- ・社会連携型教育において、企業・自治体・NPO の現場を知る機会を設けます。

## 3 思考力・判断力 【課題を多角的に捉え、創造的に考える力】

学科の全科目でアジャイル教育を全面的に導入します。学生がグローバルな視野でデータサイエンスに関する諸問題を見出し、多様なイシューについて判断する能力を身につけるために、

- ・現代社会が直面する自然環境、社会環境の諸課題の分析・解決の方法論を身につける科目を配置します。
- ・試行錯誤プロセスを大事にした教育を通じて、創造的なプロセスを繰り返し反復的に学ぶ（スパイラルアップ）教育を重視します。
- ・グループ協調活動を通じて、多様な考えに常に触れ、触発する機会を最大限提供します。特に、1年次から実施するプロジェクト型科目（未来創造プロジェクト）をスパイラルアッププログラムとして機能させることに加え、社会連携型教育での企業との共同研究や官公庁との委託研究に携わるなどの実課題の解決に向けた実践的な学修と共同研究を通じて、データによりエビデンスを示し、解決策や新しいアイデア創出ができる知識・スキルもデータサイエンス学科の特徴的な能力として鋭意養成します。

## 4 交感力・発信力 【多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力】

知識とスキルを文脈的に結合した実践知を育みます。教育の基本方針には、「インプット型教育からアウトプット型教育への全面的な切り替え」を掲げ、知識やスキルの理解にとどまらず、それらを活用したアウトプット（成果）を要求する教育方法を全面的に採用します。

多様な状況・文脈に応じた有益な知識の抽出・分析、それらに対応する技術力、さらにそれらの発信力を身につける科目を配置するとともに、アウトプットを行う機会として、グループ協調学習及び未来創造プロジェクト（研究体験連動型学習対応科目）や社会連携型

教育での発表・質疑、教員へのプレゼン、学会・企業など社会的な場でのアピールなど多様で頻度の高いプレゼンの場を提供するとともに、表現力について自然にステップアップできる環境を整え、提供します。

加えて、グループ協調学習及び未来創造プロジェクトや卒業論文（研究体験連動型学習対応科目）を通じて、同じ問題意識を持った者同士で、多様な意見やデータ分析結果を出し合いながら、データサイエンスに基づく感性を持って、新たな社会実現に向けて実行できる能力を培います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[https://www.musashino-u.ac.jp/academics/faculty/international\\_data\\_science/data\\_science/policy.html](https://www.musashino-u.ac.jp/academics/faculty/international_data_science/data_science/policy.html)）

（概要）

本学科では、SDGsに代表される自然環境、社会環境を対象とした多様分野において、データサイエンスの知識と技術を駆使、活用した課題発見と人工知能、ビッグデータ分析を活用した課題解決や価値創造を担う創造的活動を志向し、先導しようとする者を求めます。そのため、次のような能力・意欲を有する者の入学を求めます。

志向性:将来の進路

- ・データサイエンスの専門知識、技術をもとにした自然環境、社会環境の将来像を描くビジョン・クリエイター
- ・新たなAI技術を活用し、高度人工知能、ロボティクス、ウエルネス等の新しい分野を切り開くAIクリエイター
- ・AI・データ解析を基に企業・新ビジネスを立ち上げるビジネスクリエイター

期待する能力:知識・専門性

- ・高等学校の各教科・科目を文系・理系にとらわれず幅広く学習し、広く基礎学力を身につけていること
- ・高等学校で履修するのが望ましい教科・科目:英語、数学、情報
- ・高等学校で取得するのが望ましい資格等:数学検定、実用英語技能検定（2級以上）、ITパスポート試験など

期待する能力:関心・態度・人格

- ・グローバル（大局的）な視野を持ち、斬新な発想により、SDGsに代表される自然環境・社会環境における多様な課題を発見し、解決しようとする意欲を持つ者
- ・社会で活躍するためのリーダーシップ力の獲得を志向する者
- ・社会で活躍するための柔軟性、コミュニケーション能力の獲得を志向する者

期待する能力:思考力・判断力

- ・グローバルな視野を持ち、かつ、高度に探求する姿勢を有し、SDGsに代表される自然環境・社会環境における多様な課題を発見し、解決方法を論理的に思考、発想できる者
- ・社会で活躍するためのリーダーシップの獲得方法を思考、実現できる者
- ・社会で活躍するための柔軟性、コミュニケーション能力獲得のための方法を思考、実現できる者

期待する能力:交感力・発信力

- ・日本語及び英語を用い、的確に読み、聞き、書き、他者に自身の知識、アイデアを伝えられる者
- ・自らの考えを明確かつ論理的に組み立て、文書や、図解等、メディア表現能力を用いて論文・報告書・制作物にまとめて発表・表現できる者
- ・自らコミュニケーションを通じて他者と協調し、未来社会を創造するための方向性を示し実行できる者

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/figure.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5人	—					5人
文学部	—	9人	2人	2人	0人	0人	13人
グローバル学部	—	12人	7人	5人	0人	0人	24人
法学部	—	13人	8人	2人	0人	0人	23人
経済学部	—	7人	3人	2人	2人	0人	14人
経営学部	—	13人	8人	2人	0人	0人	23人
アントレプレナーシップ学部	—	15人	2人	0人	0人	1人	18人
データサイエンス学部	—	7人	7人	2人	1人	0人	17人
人間科学部	—	16人	9人	6人	4人	0人	35人
ウェルビーイング学部	—	11人	2人	2人	0人	0人	15人
工学部	—	16人	11人	1人	1人	2人	31人
教育学部	—	14人	14人	1人	0人	0人	29人
薬学部	—	16人	6人	21人	9人	0人	52人
看護学部	—	8人	6人	14人	8人	1人	37人
教養部（一般教育）	—	17人	3人	6人	0人	0人	26人
大学院	—	3人	0人	0人	0人	0人	3人
附置研究所	—	3人	0人	1人	0人	0人	4人
その他	—	0人	2人	1人	0人	0人	3人
通信教育部（国際データサイエンス学部）	—	0人	0人	1人	0人	0人	1人
通信教育部（人間科学部）	—	3人	2人	4人	0人	0人	9人
通信教育部（教育学部）	—	0人	0人	0人	0人	0人	0人
通信教育部（大学院）	—	1人	0人	0人	0人	0人	1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
2人		870人				745人	
各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）		公表方法： <a href="https://www-cv01.ufinity.jp/musashino/">https://www-cv01.ufinity.jp/musashino/</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>響学開発センターが主管となって全学FDSD研修会を企画し、令和7年度は「大学教育における生成AIの活用」や「生きづらさを抱えて大学生活を送る学生対応」等のテーマで開催した。併せて、各学科・研究科が固有の課題に関連するFDを独自に企画・実行したほか、学生参加型のFDも実践した。また、「学科長」「新任教員」など参加対象を限定し、ワークショップ形式の研修を実施する「目的別FDSD研修会」を複数回実施した。その他、革新的な授業改善の試みに対して大学が必要経費を助成する「授業改善トライアル」の公募・支援を行い、一連の活動実績を学内に公開した。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	200人	203人	101.5%	815人	795人	97.5%	5人	1人
グローバル学部	300人	285人	95%	1,230人	1178人	95.8%	15人	4人
法学部	290人	310人	106.9%	1,178人	1290人	109.5%	6人	人
経済学部	175人	166人	94.9%	709人	770人	108.6%	3人	人
経営学部	310人	294人	94.8%	1,249人	1388人	111.1%	3人	1人
アントレプレナー シップ学部	60人	63人	105%	240人	261人	108.8%	0人	人
データサイエンス 学部	90人	86人	95.6%	360人	403人	111.9%	0人	人
人間科学部	360人	351人	97.5%	1,458人	1539人	105.6%	6人	1人
ウェルビーイング 学部	80人	78人	97.5%	260人	250人	96.2%	10人	5人
工学部	200人	194人	97%	800人	856人	107%	0人	人
教育学部	220人	210人	95.5%	880人	913人	103.8%	0人	人
薬学部	145人	152人	104.8%	870人	838人	96.3%	0人	人
看護学部	125人	87人	69.6%	500人	465人	93%	0人	人
通信教育部 (人間科学部)	250人	174人	69.6%	2,400人	2,443人	101.8%	700人	169人
通信教育部 (教育学部)	15人	16人	106.7%	225人	118人	52.4%	55人	17人
通信教育部 (国際データサイ エンス学部)	32人	6人	18.8%	57人	16人	28.1%	25人	10人
合計	2,852人	2,479人	93.8%	13,231人	13,523人	102.2%	828人	208人
(備考) 入学者数については、再入学者・編入学者を含めない。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	178人 (100%)	2人 ( 1.1%)	149人 ( 83.7%)	27人 ( 15.2%)
グローバル学部	210人 (100%)	9人 ( 4.3%)	158人 ( 75.2%)	43人 ( 20.5%)
法学部	235人 (100%)	14人 ( 6.0%)	194人 ( 82.6%)	27人 ( 11.5%)
経済学部	150人 (100%)	2人 ( 1.3%)	131人 ( 87.3%)	17人 ( 11.3%)
経営学部	282人 (100%)	6人 ( 2.1%)	241人 ( 85.5%)	35人 ( 12.4%)

アントレプレナーシップ学部	50人 (100%)	4人 ( 8.0%)	44人 ( 88.0%)	2人 ( 4.0%)
データサイエンス学部	94人 (100%)	4人 ( 4.3%)	85人 ( 90.4%)	5人 ( 5.3%)
人間科学部	326人 (100%)	19人 ( 5.8%)	272人 ( 83.4%)	35人 ( 10.7%)
工学部	185人 (100%)	46人 ( 24.9%)	122人 ( 65.9%)	17人 ( 9.2%)
教育学部	198人 (100%)	4人 ( 2.0%)	188人 ( 94.9%)	6人 ( 3.0%)
薬学部	126人 (100%)	3人 ( 2.4%)	123人 ( 97.6%)	0人 ( 0.0%)
看護学部	107人 (100%)	6人 ( 5.6%)	100人 ( 93.4%)	1人 ( 1.0%)
通信教育部 (人間科学部)	668人 (100%)	8人 ( 1.2%)	468人 ( 70.1%)	192人 ( 28.7%)
通信教育部 (教育学部)	20人 (100%)	0人 ( 0.0%)	10人 ( 50.0%)	10人 ( 50.0%)
通信教育部 (国際データサイエンス学部)	0人 (100%)	0人 ( %)	0人 ( %)	0人 ( %)
合計	2,829人 (100%)	127人 ( 4.5%)	2,285人 ( 80.3%)	417人 ( 14.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

## ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

### ■通学制 (通信制国際データサイエンス学部含む)

- ・シラバスに、授業科目の授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、予習と復習の具体的な内容、授業計画、教科書などについて記載している。
- ・シラバスは大学 WEB サイトに公開をしている。

### ■通信教育部 (人間科学部・教育学部)

通信教育部の授業科目、学修方法及び内容は、シラバス及び各専攻・専修ページで公表している。授業は、定期試験等を含め、4月15日から2月11日までの間に適切に行う。

## ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

### ■通学制

試験等の学修成果に基づき「S. A. B. C. D. X」で評価している。

なお、評価の基準については、本学のHPにて公開されている。

<進級の基準>

<https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/faculty/guide/9-promotion-faculty/>

<卒業の要件>

<https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/faculty/guide/10-graduation-requirements-faculty/>

### ■通信教育部

(人間科学部・教育学部)

3つの教育方針

(人間科学部)

[https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/human\\_sciences/index.html](https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/human_sciences/index.html)

(教育学部)

<https://dl.musashino-u.ac.jp/academics/education/index.html>

(国際データサイエンス学部)

<学修成果の評価基準>

- ・学修成果に基づき「S. A. B. C. D. X」で評価している。

なお、評価の基準については、大学 WEB サイトにて公開されている。

<GPA の算出方法・実施状況等>

- ・評価それぞれに成績ポイント (S を 4.0 ポイント、A を 3.0 ポイント、B を 2.0 ポイント、C を 1.0 ポイント、D、X を 0 ポイント) を設定し、その成績ポイントに科目の単位数を乗じた値の合計を、履修単位数の合計で割って GPA を算出する。(小数点第3位以下は切り捨て)

- ・GPA の算出は、各学期 (1 - 4 学期) の成績確定後に実施する。

<卒業の認定に関する方針>

(1) 本学に 4 年以上在学していること※

(2) 定められた教育課程を履修し、卒業に必要な単位を修得していること (このうち、最低 30 単位は面接授業又はメディア授業によって取得しなければならない)

(3) 本学において定められた学費を納入していること

※在学期間には休学期間は含まれません

<履修上限単位数>

以下、URL の 13 頁および 14 頁

[https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/yoran/2026/tsushin/pdf/guide\\_jp.pdf](https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/yoran/2026/tsushin/pdf/guide_jp.pdf)

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	日本文学文化学科	124 単位	有	160 単位
グローバル学部	グローバルコミュニケーション学科	124 単位	有	160 単位
	日本語コミュニケーション学科	124 単位	有	160 単位
	グローバルビジネス学科	124 単位	有	160 単位
法学部	法律学科	124 単位	有	160 単位
	政治学科	124 単位	有	160 単位
経済学部	経済学科	124 単位	有	160 単位
経営学部	経営学科	124 単位	有	160 単位
	会計ガバナンス学科	124 単位	有	160 単位
アントレプレナーシップ学部	アントレプレナーシップ学科	124 単位	有	160 単位
データサイエンス学部	データサイエンス学科	124 単位	有	160 単位
人間科学部	人間科学科	124 単位	有	160 単位
	社会福祉学科	124 単位	有	160 単位
ウェルビーイング学部	ウェルビーイング学科	124 単位	有	160 単位
工学部	サステナビリティ学科	124 単位	有	160 単位
	環境システム学科	124 単位	有	160 単位
	数理工学科	124 単位	有	160 単位
	建築デザイン学科	124 単位	有	160 単位
教育学部	教育学科	124 単位	有	194 単位
	幼児教育学科	124 単位	有	167 単位
看護学部	看護学科	124 単位	有	200 単位
薬学部	薬学科	206 単位	有	306 単位
通信教育部 (人間科学部)	人間科学科	124 単位	有・無	単位
通信教育部 (教育学部)	教育学科	124 単位	有・無	単位
通信教育部 (国際データサイエンス学部)	データサイエンス学科	124 単位	有	160 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 :

[https://www.musashino-u.ac.jp/guide/campus/ariake\\_campus.html](https://www.musashino-u.ac.jp/guide/campus/ariake_campus.html)

[https://www.musashino-u.ac.jp/guide/campus/musashino\\_campus.html](https://www.musashino-u.ac.jp/guide/campus/musashino_campus.html)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	学年	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	日本文学文化学科	1	793,000円	230,000円	183,000円	教育充実費
		2	793,000円	0円	286,000円	教育充実費
		3~4	770,000円	0円	278,000円	教育充実費
グローバル学部	グローバルコミュニケーション学科	1	914,000円	230,000円	263,000円	教育充実費
		2	914,000円	0円	368,000円	教育充実費
		3~4	870,000円	0円	350,000円	教育充実費
	日本語コミュニケーション学科	1	843,000円	230,000円	258,000円	教育充実費
		2	843,000円	0円	361,000円	教育充実費
		3	793,000円	0円	361,000円	教育充実費
		4	770,000円	0円	350,000円	教育充実費
	グローバルビジネス学科	1	896,000円	230,000円	258,000円	教育充実費
		2~3	896,000円	0円	361,000円	教育充実費
4		870,000円	0円	350,000円	教育充実費	
法学部	法律学科 政治学科	1	845,000円	230,000円	183,000円	教育充実費
		2~3	845,000円	0円	286,000円	教育充実費
		4	820,000円	0円	278,000円	教育充実費
経済学部	経済学科	1	793,000円	230,000円	183,000円	教育充実費
		2	793,000円	0円	286,000円	教育充実費
		3~4	770,000円	0円	278,000円	教育充実費
経営学部	経営学科 会計・ビジネス学科	1	793,000円	230,000円	183,000円	教育充実費
		2~3	793,000円	0円	286,000円	教育充実費
		4	770,000円	0円	278,000円	教育充実費
アントレプレナーシップ学部	アントレプレナーシップ学科	1	793,000円	230,000円	350,000円	教育充実費
		2	793,000円	0円	453,000円	教育充実費
		3	793,000円	0円	371,000円	教育充実費
		4	770,000円	0円	360,000円	教育充実費
データサイエンス学部	データサイエンス学科	1	999,000円	230,000円	338,000円	教育充実費・実験実習料
		2~3	999,000円	0円	441,000円	教育充実費・実験実習料
		4	970,000円	0円	430,000円	教育充実費・実験実習料
人間科学部	人間科学科 社会福祉学科	1	845,000円	230,000円	183,000円	教育充実費
		2~3	845,000円	0円	286,000円	教育充実費
		4	820,000円	0円	278,000円	教育充実費
ウェルビーイング学部	ウェルビーイング学科	1	1,020,000円	230,000円	275,000円	教育充実費
		2~3	1,020,000円	0円	275,000円	教育充実費

工学部	サステナビリティ 学科	1	1,051,000円	230,000円	283,000円	教育充実費
		2~3	1,051,000円	0円	283,000円	教育充実費
		4	1,020,000円	0円	275,000円	教育充実費
	数理工学 科	1	1,133,000円	230,000円	335,000円	教育充実費
		2~3	1,133,000円	0円	335,000円	教育充実費
		4	1,100,000円	0円	325,000円	教育充実費
	建築デザイン 学科	1	1,020,000円	230,000円	340,000円	教育充実費
		2	1,020,000円	0円	391,000円	教育充実費
		3	1,020,000円	0円	464,000円	教育充実費
4		990,000円	0円	450,000円	教育充実費	
教育学部	教育学科	1	896,000円	230,000円	229,000円	教育充実費
		2~3	896,000円	0円	321,000円	教育充実費
		4	870,000円	0円	312,000円	教育充実費
	幼児教育学 科	1	845,000円	230,000円	229,000円	教育充実費
		2~3	845,000円	円	321,000円	教育充実費
		4	820,000円	円	321,000円	教育充実費
薬学部	薬学科	1	1,442,000円	230,000円	484,000円	教育充実費
		2	1,442,000円	0円	681,000円	教育充実費・実験実習料
		3	1,442,000円	0円	666,000円	教育充実費・実験実習料
		4	1,400,000円	0円	670,000円	教育充実費・実験実習料
		5	1,400,000円	0円	730,000円	教育充実費・実験実習料
		6	1,400,000円	0円	670,000円	教育充実費・実験実習料
看護学部	看護学科	1	1,257,000円	230,000円	419,000円	教育充実費・実験実習料
		2~3	1,257,000円	0円	562,000円	教育充実費・実験実習料
		4	1,220,000円	0円	570,000円	教育充実費・実験実習料
通信教育部 (人間科学部・ 教育学部)	人間科学科 教育学科	1年次 入学	170,000円	30,000円	10,000円	その他：補助教材費
		編入学	170,000円	30,000円	10,000円	その他：補助教材費
通信教育部 (国際データサイ エンス学部)	データサイ エンス学科	1	570,000円	30,000円	0円	
		2~4	570,000円	0円	0円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>■<b>通学制及び通信制（国際データサイエンス学部）</b>          本学では障害のある学生等に対し、障害の内容・状況に応じて合理的配慮を行っている。対象学生の履修科目担当教員に、具体的な配慮内容を記載した文書を配布し、授業内において配慮の提供を行う流れとなっている。</p> <p>■<b>通信教育部（人間科学部・教育学部）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員・専門スタッフの伴走サポート</li> <li>学修計画 / 履修の相談「アカデミック・アドバイザー」</li> <li>モチベーションを支える「メンター相談（オンライン）」</li> <li>学修内容に関する質問「科目 Q&amp;A」</li> <li>履修や事務手続きの相談「WBT メール機能」</li> <li>専任教員による個別学修相談会（オンライン）</li> <li>オンライン及び対面の懇談会・相談会等</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援制度・合理的配慮</li> <li>障害等のある学生への修学支援（合理的配慮）</li> <li>奨学金制度（経済的支援）</li> <li>学生教育研究災害傷害保険（学研災）</li> </ul>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>1年次からキャリアデザイン科目、2年次からインターンシップ科目を開講している。また、就職支援ガイダンス、就活対策講座、公務員試験対策講座、資格取得支援、キャリアアドバイザー個別相談、業界・企業研究、卒業生訪問、留学生や障がいのある学生向けの就職支援ガイダンスなど様々なプログラムを多数実施している。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>健康管理センター（大学保健室及び学生相談室を設置）にて、健康診断や健康相談、精神保健に関すること、応急処置、感染症予防等を行っている。</p> <p>大学保健室は、応急処置等のほか、学生の健康診断を年1回実施し、希望の学生には健康相談も実施している。</p> <p>学生相談室は、学生が有意義な学生生活を送れるよう支援することを目的としている。常駐の相談員（カウンセラー）が学生一人ひとりの悩みや問題をともに考え、学生自ら問題解決を見出せるよう援助している。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：<a href="https://www-cv01.ufinity.jp/musashino/">https://www-cv01.ufinity.jp/musashino/</a></p>
---

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

## ○総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み

### 1 副専攻

武蔵野大学では、AI 活用エキスパートコース、仏教プラクティスコースがあり、所属する学部・学科で学ぶ専門分野を主専攻とし、それに加えて異なる種類の専門を学ぶことのできる副専攻を用意しています。

「AI エキスパートコース」はデータサイエンスおよび機械学習の専門的なツールを活用して、実社会の問題解決を実践的に行うことができるエキスパートになることを希望する、全学部生に門戸を開いている。急速に需要が高まる AI を活用できる人材育成を目指し、履修可能としています。

「仏教プラクティスコース」は、多様な価値観と知の融合を体験的に学ぶ機会として、現代社会の直面する様々な課題解決に向けて、倫理的・精神的アプローチを探究する。主専攻の専門分野に加えて仏教的視点を合わせて学ぶことで、分野横断的な思考力と実践力を育成することを目的としています。

### 2 転部・転科

専門領域のミスマッチを解消し学修継続を支援するため、転部・転科の制度を設けています

### 3 全学共通基礎課程

武蔵野大学では、全学生が1年次に全学共通の基礎課程「武蔵野 INITIAL」を必修科目として履修します。「武蔵野 INITIAL」は本学の建学の精神を学ぶ「仏教基礎・発展」や「スポーツ」、英語をはじめとする6か国語を学べる「外国語科目」を通じて、専門の学びと結びつくことで「アクティブな知」につながるプログラムとなっています。

特に「SDGs 発展」ではSDGs17の目標を「人文学、社会科学、自然科学」の3つの分野に分け、学生自身が選択できる文理横断型の実施形態を採用しており、同じ講義内で他学部の学生と交流できる環境を展開しています。また、情報科目として「データサイエンス基礎、人工知能基礎」を履修します。これらの科目では、社会に溢れているデータを収集するだけでなく、ヒトがAIを利活用するために必要なAIの仕組み、社会的意義、今後の可能性についての基礎知識、それらを利活用できる基礎的な知識とスキルを実践的に学ぶことができます。

### 4 入試

令和2年度入試より、全学部統一選抜、一般選抜A日程の筆記試験科目に、「社会と情報及び情報の科学」という科目を導入しています。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F113310103830
学校名 (〇〇大学 等)	武蔵野大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人武蔵野大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生 (内数) ※家計急変による者を除く。		1,828人 (1,154) 人	1,830人 (1,171) 人	1,940人 (－) 人
内 訳	第Ⅰ区分	426人	398人	
	(うち多子世帯)	(77人)	(70人)	
	第Ⅱ区分	205人	213人	
	(うち多子世帯)	(42人)	(41人)	
	第Ⅲ区分	167人	154人	
	(うち多子世帯)	(37人)	(31人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	32人	36人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	176人	176人	
	区分外 (多子世帯)	822人	853人	
家計急変による 支援対象者 (年間)				18人 (－) 人
合計 (年間)				1,958人 (1,251) 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	42人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	—	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	人	人
計	58人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	—	前半期	人 後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	—
訓告	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	40人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	—	人	人
GPA等が下位4分の1	—	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	337人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。